

桜一39号  
平成29年10月2日  
横浜市立桜岡小学校  
校長 高島 典子

保護者様

## 全国学力・学習状況調査結果についてのお知らせ

爽りの秋となりました。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

さて、全国の6年生児童を対象に4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果が発表となりました。それをもとに分析した「本校の状況」について報告させていただきます。

### <全国学力・学習状況調査の目的>

- (1) 全国の小中学校児童生徒の学習状況について、分析的・総合的に把握し、教育施策に活用するとともに、児童生徒の学力向上などに生かす。
- (2) 各学校においては、自校の一人ひとりの学習状況をとらえ、教科指導や教育評価の改善及び、個に応じた指導の充実などに生かす。
- (3) 児童生徒においては、学力向上のために自らの学習状況をとらえ、学習の改善などに生かす。

### <本校の各教科・観点別の調査結果>

桜岡小学校6年生(4月) 平均正答率(%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
桜岡小学校	77	61	81	54
横浜市	75	59	80	48
神奈川県	73	57	77	46
全国	75	58	79	46

### <考察>

全体的に見て、平均正答率が全国平均を2~3%以上上回っている。特に、算数の「主として活用」の力を見るB問題で、8%も全国平均を上回っているのは特筆すべきと言える。

学習指導要領の領域等別平均正答率で見ると、国語Aでは、「話すこと・聞くこと」における正答率が全国平均を12%も上回っている。これは、昨年度から校内重点研究で国語を取り上げ、「学び合いの中で自分の考えを伝えられる子の育成」というテーマで研究をしてきた成果の表れであると考えられる。児童質問紙の回答から、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができ、友達の考えを受け止めて自分の考えをもつことができている」と自己評価している児童が多いことから分かる。しかし、「読むこと」については、国語A・B両方とも全国平均を若干下回っている。1日の読書量が30分未満の児童が7割近くいる。読書の秋。日頃から本や新聞などの文章に親しむ習慣を身に付けてほしい。

算数Aでは、全体的にやや全国平均を上回り、特に「量と測定」の領域においては5%上回っていた。算数Bではどの領域においても10%前後上回っていて、算数で学習したことを普段の生活の中で活用できないかと考えている児童が8割近くいることから、少人数学習での指導体制の中で学んだことを生かそうとする姿勢がうかがえる。

児童質問紙からは、「みんなで協力して何かをやり遂げ、嬉しかったことがありますか。」「学校に行くのは楽しいと思いますか。」「学校のきまりを守っていますか。」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」「国語・算数の授業の内容はよく分かりますか。」などの項目で、特に他地域に比べて高い数値が見られた。一方、「1日あたりの読書量」「1日当たりの携帯電話やスマホで通話やメール、インターネット使用量」など、改善が必要な項目もあった。

今後の取り組みについては、引き続き、基礎・基本の確実な定着を図りながらも、身近な生活の中で学んだことを生かせるよう、友達との学び合いの中で自ら進んで課題解決していけるような授業内容の工夫をしていきたい。